

医療安全管理におけるヒューマンエラー

島田病院 院長 河崎 収

重大な交通事故、産業事故、医療事故が連日のように報道され、いっこうに減ることがありません。このような事故の多くはヒューマンエラーが関係していると言われていています。ヒューマンエラーとは人間が関与するために発生する勘違い、見間違い、聞き間違い、思い込みやうっかりミスなどによるエラーです。人間の介在する要素が多い業務ほどヒューマンエラーが発生しやすくなります。医療の現場では他の産業分野に比べても人間の介在する要素が多くあり、ヒューマンエラーが関与する医療事故が多く発生しています。ヒューマンエラーの1つ1つは単純で些細なミスであっても、いくつかのヒューマンエラーが連鎖することで重大な事故に発展することになります。

皆さんの日常生活を振り返れば、毎日何らかのうっかりミスや思い込みによる間違いがあることに気づくはずですが、わかり易くするために具体例をあげてみましょう。

いつも食事する食卓に、2つの容器があります。赤いふたの容器には醤油を、青いふたの容器にはソースを入れて日常的に使用しているとします。ある日、家の誰かがうっかり間違えて赤いふたの容器にソースを入れ、青いふたの容器に醤油を入れてしまったとします。透明の容器であれば醤油とソースの外見上区別がつかみません。いつものように食事が始まり、冷や奴に醤油をかけて食べようと思います。そのとき、いつもは醤油が入っている赤いふたの容器を取ってかけるはずですが、赤いふたの容器には醤油が入っているはずであり、ほとんどの人は、臭いをかいだり、味見をして確認しようとはしないはずですが、冷や奴を食べてはじめて間違いに気づきます。習慣や記憶で思い込んだ認識パターンでこのような行動を取りますが、このような認識能力は、自分の生活を便利にし、効率化するために人間が成長過程で身につけた情報処理能力でもあるのです。成長の過程で身につけた能力によって逆に間違いが助長されることになります。このようなエピソードは毎日の暮らしの中でしばしば経験するのではないのでしょうか。

日常生活の一コマでの間違いであれば、笑って済ませることもできるでしょうが、同様のことが医療の現場で発生するとどうなるでしょうか。時には重大事故に発展することになります。実際、某大学病院で類似の事故が発生しています。

人工呼吸を要する女性患者が入院しており、看護師たちは人工呼吸器の加湿器の中に滅菌精製水を定期的に補給していました。滅菌精製水はポリタンクに入っていました。ポリタンクの滅菌精製水がなくなったため、看護師Aは新しい滅菌精製水のポリタンクを取りに行きましたが、上司との伝達上のミスもあって、

間違えてエタノールの入ったポリタンクを持ってきてしまったのです。看護師Aは注射器で滅菌精製水と思い込んだまま、エタノールを吸って加湿器内に注入しました。仕事を引き継いだ数名の看護師たちも同様、間違いに気づくことなく病室に置かれたポリタンクから「滅菌精製水」のつもりで補給していきました。患者の容態が悪化してはじめてポリタンクの中身がエタノールであることに気づいたのでした。ポリタンクにエタノールのラベルは貼付されていたのですが、色や形が滅菌精製水のポリタンクと極めて類似していたために、滅菌精製水だと思い込み誰も確認しませんでした。この事例でもわかるように、いくら真剣に作業をしていても一定の環境や条件のもとではいとも簡単にヒューマンエラーが発生してしまいます。

従来、ヒューマンエラーは個人の不注意や集中力の欠如によって発生するものであり、十分気をつけていれば防げるはずと考えられていました。そのため、「今後十分注意すること」、「慎重にすること」など個人レベルの対策、いわゆる精神論的な対応に終始する傾向にありました。これはヒューマンエラーが個人の資質や性格の特性によって発生したと考えるために、当事者に注意を喚起したり、時には罰したりすることで解決できると考えていたのです。人間は長時間にわたって集中力、注意力を維持することは困難で、記憶力も曖昧になりがちです。人間は皆さんが考えているほど信頼できるものではなく、当てにならないものなのです。ですから、個人レベルでの努力や注意だけに期待した事故対策では事故を防止することはできません。実際、このような対策のもとでは交通事故、産業事故、医療事故などは減ることはありませんでした。

安全対策を考える場合には、「人は必ず間違える」ものであることを前提として、人間の能力に期待しない方法を用いた対策が必要となります。「もっと注意して作業しろ」と言うよりも作業方法や道具(システム)を改善する方が効果的であると言われていています。

河野龍太郎氏は「医療におけるヒューマンエラー」という著作の中で「ヒューマンエラーは、人間の本来持っている特性が、人間を取り巻く広義の環境とうまく合致しないために、結果として誘発されたものである」と定義しています。多くの事故事例の分析から、エラーをしてしまった人間に問題があるのではなく、間違いをしやすい表示やわかりにくい説明書などがエラーを引き

次頁へ続く▶



島田病院

おこしたと考えた方が良い事例が多数見いだされたことから上記のような定義付けを行っています。ヒューマンエラーを個人の単純ミスで片付けるのではなく、ミスを誘発した背景を深く追求することで、より有効な事故防止策が考えられるようになります。残念ながら人間の特性上、ヒューマンエラーをゼロにすることはできません。しかしながらエラーの影響をコントロールすることは可能です。ヒューマンエラーを未然に防止するための対策は

重要ですが、エラーは発生するものという前提に立ってヒューマンエラーによる被害を最小限にするシステム構築を目指すのが医療安全では肝要であると考えます。

当院では、医療安全管理委員会、医療安全管理室を中心として医療事故防止のための対策を講じています。リスクはゼロにはならない、リスクは常在することを念頭におき安全対策を進めていきたいと考えています。

インフォメーション

皆様のご利用を、
お待ちしております。

ヴィゴラス教室のご案内

姿勢改善教室

—第3弾 テーマ：肩こり—

～ピラティスで姿勢の改善、肩こり解消！～

皆さん、肩こりはありませんか？

「私、猫背だから」という声が聞こえてきそうですが、実は猫背だけが肩こりの原因ではないのです！ ポイントは“肩甲骨”です。

ピラティスとは20世紀初頭にドイツでリハビリを目的として作られたエクササイズで、自分の体の様々な部分（今回は特に肩甲骨）を動かす事で姿勢改善や柔軟性の向上にもつながります。

体の仕組み・運動方法を理解した上で、ピラティスを楽しみながら姿勢改善・肩こり解消を目指しましょう。ぜひ、ご参加ください。

実施日：平成24年6月28日(木)

時間：14:30～16:00(90分)(受付 14:00～)

場所：はびきのヴィゴラス

教室内容：講義(30分) 「肩のこらない良い姿勢とは…?」「ピラティスって何…?」
：実技(60分) 「ピラティスで肩こり解消!」*グループレッスン

対象者：医師から運動制限を受けておられない方 ピラティスに興味のある方

費用：一般/3,000円 ヴィゴラス会員/2,000円(税込)

講師：理学療法士&STOTT PILATES インストラクター/大嶺 俊充

定員：先着15名(完全予約制) *お申し込み2名以下の場合中止

持ち物：動きやすい服装、飲み物、タオル *室内シューズは不要

申し込み方法：①はびきのヴィゴラスにて直接お申し込み

②TEL・FAXまたはEメールにてお申し込み

※お問合わせは島田病院 地下1階
はびきのヴィゴラスまで

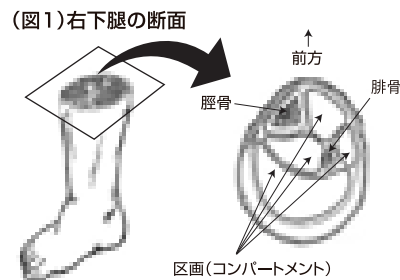
TEL/FAX 072-953-1007

E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

下腿(かたい)コンパートメント症候群のリハビリテーション

下腿(かたい)コンパートメント症候群とは

下腿(かたい)は、ひざから足首までの部分のことをいいますが、その構造は、骨と筋膜によって構成され、区画(コンパートメント)されています。(図1)この下腿の区画の内圧が上昇することで、血行や神経を障害して、筋肉の機能不全などに至るものを「下腿コンパートメント症候群」といいます。スポーツ場面では、すねの前外側に起こることが多く、症状としては、痛みや張り感、足首の上がりにくさ、しびれ感などがあります。



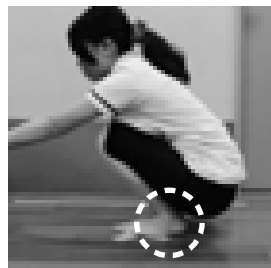
原因(例)

好発するスポーツ種目は、陸上(長距離)、バスケットボール、テニス、サッカーなど、特にランニング動作を繰り返す競技に多い傾向があります。ランニング時に踵が地面に接地して体重がのっていき際に、すねの前の筋肉はその衝撃を吸収するために働きます。このような運動が多く繰り返されると、足首の硬さや体の使い方、靴や地面の状況なども影響して、徐々に筋肉に負担が蓄積してしまうことになります。

チェック方法(例)

下腿コンパートメント症候群になりやすいか、ご自身の体をチェックしてみましょう。

- ①踵をつけたまま下までしゃがみ込めますか?(図2)
→後ろに倒れてしまう場合は、足首が硬く、すねの前の筋に負担がかかりやすくなります。
- ②ジャンプの着地姿勢は、上体が起き過ぎていませんか?(図3)
→上体を起こして着地するクセがあると、ひざや足首に負担がかかりやすくなります。



(図2) 踵が浮かないようにしゃがみ込みます



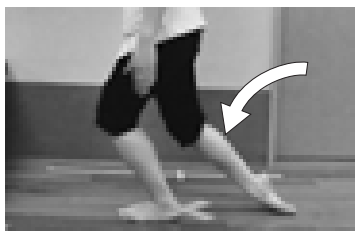
(図3) 普段の着地姿勢をチェック

対策

症状が落ち着くまで、スポーツ参加内容の調整をした上で、氷で冷やすなど、区画内の内圧を下げる必要があります。運動療法としては、筋肉や関節の柔軟性、正しい動作の習得などが重要となります。以下にいくつかの運動療法(例)をご紹介しますので、スポーツ障害予防としても競技の前後に取り入れられることをお勧めします。

運動療法(例)

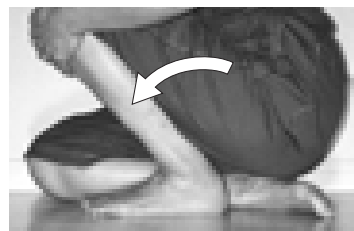
柔軟性向上:各ストレッチ①②③の姿勢を静止します(20秒×3回)



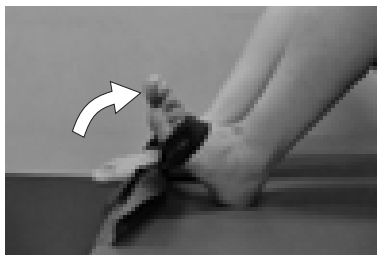
①すね前面筋のストレッチ



②すね後面筋のストレッチ



③足首のストレッチ



すね前面筋の持久力向上

足の甲にセラバンド等をかけ、踵を支点に手前に引きます。下ろす時にはゆっくり下ろします。(20回)



着地動作の練習

股関節から上体を倒して、着地の衝撃を吸収します。体全体で衝撃を吸収するイメージが大切です。

【注意】 足首に力が入らない、感覚がおかしい、しびれるといった症状は、腰椎椎間板ヘルニアなどの可能性もあります。症状が続く場合は、医療機関へ受診されることをお勧めします。

はあとふるグループ 使命

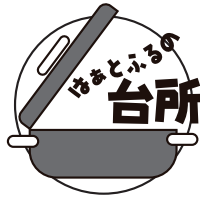
私たちは、良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に提供し続けます

はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを
Warm Heart:心 Cool Head:知識 Beautiful Hands:技術
で支援します

島田病院 理念

人間愛にもとづく確かな知識と技術により、
信頼でつながるチームで、安全に、
心に届くサービスを提供します

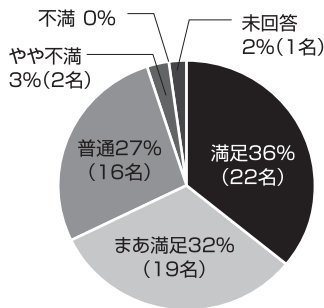


食事満足度調査結果

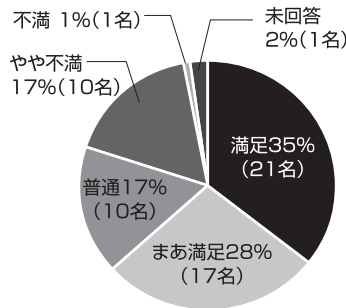
栄養管理課では、「入院中の食事の質の向上」を目的に、患者さまへの食事満足度調査を毎年2回実施しております。今回は、平成24年3月に実施致しました調査結果を発表します。

実施期間:平成24年3月7日~3月31日 配布枚数:80枚 回収枚数:60枚 回収率:75.0%

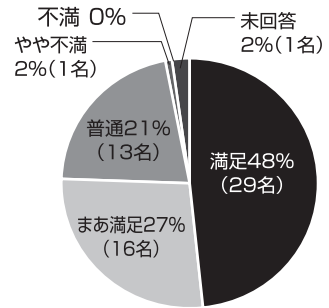
1.食事全体の満足度



2.味付けについて



3.温かさについて



4.嗜好

好きなメニュー

- 魚料理(14名うち刺身2名)
- 肉料理(12名うち3名鶏肉 5名焼き肉)
- 麺類(9名) ●カレーライス(4名)
- 寿司(3名) ●おでん(2名) ●からあげ(2名)
- 餃子(2名) ●ハンバーグ(2名)

嫌いなメニュー

- 南瓜(3名) ●野菜(3名)
- 牛乳(2名) ●コーン(2名) ●ゴーヤ(2名)
- 魚介類(2名) ●肉(2名)
- 甘い物、味付け(2名) ●唐辛子(2名) など

5.食事・栄養に関して関心のあることは?

ダイエット	18人	間食の摂り方	8人
減塩	12人	貧血の食事	2人
食品のカロリー	16人	カルシウムの摂り方	9人
便秘解消の食事	12人	高齢者の食事	5人
バランスのとれた食事	31人	スポーツ栄養	8人
野菜の摂り方	18人	筋力アップの食事	10人

※このご意見は次号からの参考にさせていただきます。

6.その他のご意見(一部抜粋)

- 血圧高めの人とはとても参考になる味付けでした。
- よく工夫して美味しい食事作りに努力していることがわかり感謝いたしております。
- 食事のメニューが選べて少しでも入院生活の楽しみが増えるよう工夫されている。料理もおいしかったです。

- うどんにごはんはいらない。白いごはんより炊き込みごはんなどおにぎりにしてほしい。朝のパンは同じ種類2個より違うパンにしてほしい。
- 朝食にもっと工夫をしてほしい。
- 朝のおかずも選べたら素敵だと思いました。

麺類の際の「ごはん」の有無は両意見あり、今後も検討をして参ります。また、炊き込みごはん等にする事は麺類の塩分量が高いため、あえて控えております。朝食も洋食・和食をお選びいただけますが、内容の検討をすすめて参ります。

多数のご意見、ありがとうございました。多くの方から「満足」「美味しかった」との意見を頂戴することができました。中には「不満」との意見もあり、その理由の多くは「味がうすい」というものでした。当院では生活習慣病予防の観点から「うす味」を心がけています。「うす味」でも美味しい、またご家庭に帰られた際の参考になるような食事作りを今後も取り組んで参ります。そして入院患者さまの療養生活が少しでも快適に過ごすことができるよう食事量や形態など個々に合わせた対応ができるように努めて参ります。

栄養管理課

